



通信第 22 号

平成 28 年 8 月 25 日

発行所

クラーク記念国際高等学校

野球部納内後援会事務局

深川市役所納内支所

〒078-0151

深川市納内町3丁目1-1

TEL:(0164)24-2111

FAX:(0164)24-2125

後援会情報は、納内地域集落対策協議会HP「おさむない四季便り」(<http://osamunai.com>)と「深ナビ」(<http://www.fukanavi.com>)に掲載しています。

夢と感動をありがとう！

甲子園初戦で大健闘！！

八月十二日、初出場のクラーク高校は十年連続出場の聖光学院（福島）と互角に戦い、初勝利は飾れなかったが、彼らの全力プレーは納内に活気、私達に夢と感動を与えてくれました。

親元を離れて甲子園を目指す野球部員を地域ぐるみで応援しようと設立した納内後援会の想いに、クラーク高校は初出場した北北海道大会で初優勝し、甲子園初出場という形で応えてくれました。

惜しくも初戦敗退しましたが、野球部と納内にとって歴史的な一歩であり、甲子園への夢と挑戦はまだ続きます。次は九月の新人戦に向け、引き続き皆さんの熱い応援をよろしくお願いします。

〔試合の結果〕

8月12日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
聖光学院	0	1	0	0	0	0	0	4	0	5
クラーク高校	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3

（試合の概要）打線は初回到安田君のヒットで1点を先制、同点にされた三回到再び安田君のヒットで1点をリードし、五回には1年生の濱本君のヒットで3点目をあげた。投げては先発の平澤津君が七回まで聖光打線を2安打に抑える好投だったが、球威の落ちた八回表にタイムリー三塁打を浴びて4点を失った。八回裏の攻撃では打球がランナーに当たってアウトになる不運もあり、反撃は及ばなかった。試合は惜敗したが、2年生金原君のダイビングキャッチや1年生安楽君の好投など、次にチームを担う1・2年生の活躍が見られ、今後も大変楽しみである。



挑戦

野球部情報は、クラーク記念国際高等学校のHP「スポーツコース・硬式野球」(<http://www.clark.ed.jp/hokkaido/baseball/>)に掲載されています。

史上最大の応援団！

通信制高校では初出場のクラーク高校応援団は、チアガール百四十人を含む三千人を超える甲子園史上最大の応援団となり、アルプススタンドを埋め尽くした力強い応援は選手たちに対する大きな激励となりました。



～ 皆さん 応援ありがとうございました！ ～

納内も一丸で大声援！

納内コミュニティセンターでは約百五十人が大型スクリーンで試合観戦、



一つひとつのプレイに歓声を挙げ、立ち上がって熱い大声援を送りました。

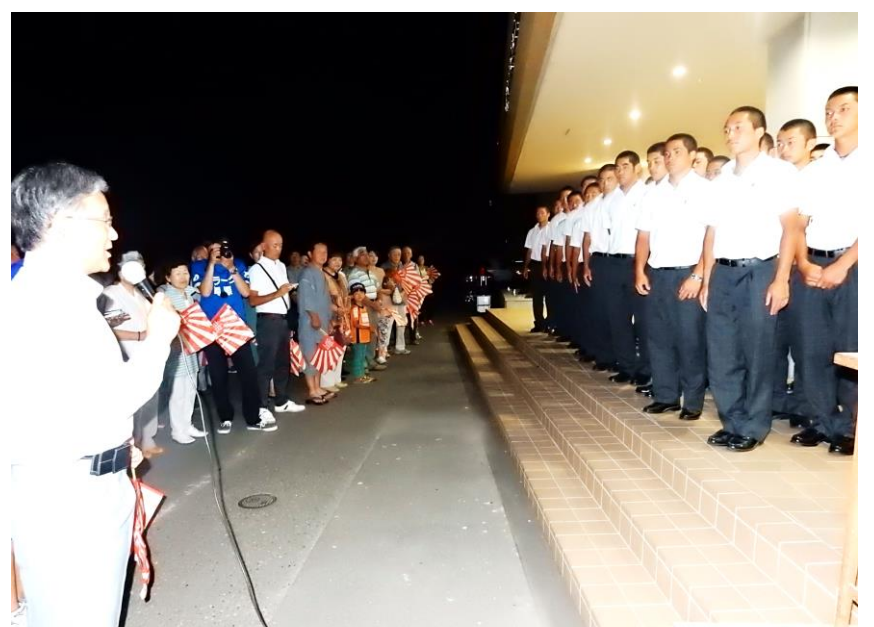
甲子園でも熱い声援！

応援ツアー参加者二十六名は山下市長、長野市議会議長、早崎きたそらち農協組合長ら七名と合流、猛暑の中、聖地甲子園で大応援団と一緒に熱い声援を送りました。



お帰りなさい！（納内に帰着）

甲子園で健闘したクラークナインが8月14日夜野球部寮（旧納内中学校）に帰ってきました。午後8時過ぎの到着にもかかわらず、地域の方々約100人が温かく出迎えました。坂本副市長と鶴岡後援会長から労いの言葉が贈られ、佐々木監督からは「応援のおかげで気持ち良くプレーできた。」とお言葉がありました。出迎えた地域住民も「よく頑張った！」と選手一人ひとりと握手を交わし健闘を讃えていました。



【クラーク記念国際高等学校からのお礼】

※4万人が見守る甲子園の大舞台で、10年連続出場の聖光学院相手に一步も引かず、最後まで光るプレーを見せた選手達の姿が今も目に残ります。支部予選、北北海道大会とチームが粘り強く勝ち進んで行けたのも、毎試合スタンドから選手一人ひとりを励まし続けて下さった後援会の皆様のおかげです。改めてご支援、ご声援に感謝申し上げます。

さて、カムイの山々を望む新球場も完成し、8月下旬から本格的な練習が始まります。一方、3年生9名は進路実現に向け頑張っています。今後も変わらぬご声援をお願いいたします。